学校教育目標　社会に貢献しながら，
自立する生徒の育成
～気づき，考え，実行する～

やまゆり

校訓　「　和　の　心　」

指導重点
① 居心地がよく，やる気のある学級集団・学校づくり
② 確かな学力の育成
③ 豊かな心の育成　④ 健やかな身体の育成
⑤ 特別支援教育の推進
⑥ 生徒の良さを伸ばし，課題を解決するための「連携・協働」の推進

Oct.

１０月を迎えます

今年度も後半戦！

朝晩の心地よい風に、確かな秋の訪れを感じる頃となりました。「実りの秋」と呼ばれるように、何かにじっくり取り組み、自分らしさを伸ばすには絶好の季節です。グラウンドや教室で輝く生徒たちの姿が、今からとても楽しみです。さて、今年度がスタートして半年。学校生活も折り返し地点を迎えました。生徒のみなさん、ここまでの道のりを一度立ち止まって振り返ってみてください。思い通りにできたこと、もう少しがんばりたかったこと――それぞれの経験を次への糧とし、後半戦に向けた新しい目標を心に描いてほしいと思います。

本校では現在、子どもたちが自ら考え行動する「自立」をテーマに掲げています。生徒自身が自分の足で立ち、歩み出す「自立」です。そのベースとなるのは、ありのままの自分を受け入れてもらえる安心感にほかなりません。ご家庭で「見てくれている」という実感が子どもたちに限界を超えるパワーを与えます。どんなに小さな変化や努力も見逃さず、言葉にして認めていく。その積み重ねこそが、未来を拓く強い自信につながります。今後も、多くの温かい目で子どもたちを見守っていければと思います。

学びの原動力となるもの

児童心理学や学級風土の研究で知られる早稲田大学の河村茂雄教授の講義を道志小中学校、全職員で受講する機会がありました。生徒が自発的に学習に向かう（内発的動機付けを高める）ためには、単に「テストで良い点を取る」だけでなく「世の中にある多くの職業や生き方を知り、進学のその先にある希望を描くこと」が極めて重要であると指摘されていました。行きたい学校や目の前の勉強は、あくまで自分の夢を叶えるための「通過点」にすぎません。「将来こんな仕事をしてみたい」「社会でこんな役割を果たしたい」という進学の先を見据えた志（こころざし）があるからこそ、日々の学習に対する本当の意欲や粘り強さが生まれてくるのです。後半戦へ目標をセットする重要な節目を迎えている今、目標を立てる上で、「何のために学ぶのか」という内発的な動機付けを高めていきましょう。

健康な体があってこそ

目標に向かって自分らしく生き生きと活動するためには、何よりも「健康な心と身体」が基盤となります。これからの季節は、朝晩の寒暖差に加え、インフルエンザをはじめとする感染症が流行しやすい時期に入ります。校内でも生徒一人一人が安心して充実した学校生活を送れるよう、改めて以下の予防対策を徹底してまいります。ご家庭におかれましても、ご理解とご協力をお願いいたします。

- **手洗い・うがいの徹底**（外から帰った際や食事前）
- **規則正しい生活習慣**（十分な睡眠・バランスの良い食事で免疫力を高める）
- **体調不良時の無理のない休養**（発熱や風邪症状がある場合は早めの受診と休養を）